

[第五回] 岩手の心を大切に、  
熱い思いで活動する  
人々の物語

# いわて球児魂

《選抜高校野球大会準優勝》  
花巻高等学校硬式野球部

4月2日午後2時26分、試合終了とともに号泣する花巻東高等学校の選手の姿に、見ている私たち県民まで胸が熱くなりました。

野球留学によって強い選手を揃える高校が全国的にある中、岩手の選手だけで勝ち取った準優勝。彼らの懸命なプレーは私たちに勇気と希望を与え、爽やかな挨拶と礼儀正しさは岩手の誇りとして心に強く刻まれました。

平成13年に就任した佐々木洋監督は、「県内と県外に力の差はない」と考え、岩手の子どもたちにこだわってチームを作り上げました。監督は、「立派な社会人として通用する力を身に付けさせる」ことを信念に、生活指導を徹底。しかし「精神教育だけじゃダメ。勝つてこそ」花巻東の野球「が認められる」と、甲子園で「日本一」という目標を掲げました。それは野球とともに、選手たちの生活態度やチームとしての団結力など、心と技のすべてにおいての「日本一」。普段から一

人ひとりに目標を与え、それを達成するための努力と喜びを教えてきた監督にとって、「日本一」の目標は、ごく自然に生じたものでした。

「そんな監督の人間性や指導方針に惹かれて、みんながこころを選んだ」と話すのは川村悠真主将。岩手で生まれ育った選手だけのチームだから、勝つことで、育ててくれた岩手に恩返ししたい——そんな想いも活躍の原動力になったといえます。佐々木監督も川村主将も、「準優勝が悔しくて落ち込んで帰った。でも、体育館で千人以上の人たちが温かく迎えてくれて、逆に元気をもらった」と口を揃えます。岩手のために、「日本一」を！ 次の目標に向かって、選手たちは今日も厳しい練習に励んでいます。



上の写真は、選抜高校野球大会の登録選手たち18人。  
下の写真は、3年生部員。試合に出られなかった選手たちも心を一つにして戦った。



試合に勝つだけじゃない。  
心も技も「日本一」を目指す。